

1424

332

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



1421
332

大正元年度業務功程報告

福岡縣立農事試驗場

大正元年度業務功程報告

目次



- | | | | |
|-----|-----|-----|-----------|
| | | 普通作 | 部 |
| | | 第一 | 水稻作(圃場試驗) |
| | | 第二 | 麥作(圃場試驗) |
| | | 第三 | 陸稻種類試驗 |
| | | 第四 | 粟種類試驗 |
| | | 第五 | 品種改良試驗 |
| | (甲) | (甲) | 稻品種改良試驗 |
| | (乙) | (甲) | 麥品種改良試驗 |
| | | 第六 | 水稻作木框試驗 |
| | | 第七 | 水稻作鉢試驗 |
| 園藝作 | 之部 | | |
| (甲) | | | 蔬菜 |

△

九九九五二

大正
2. 12. 27
内交

菌 蟲 之 部

第四 蠶業傳習生養成
第一 稻葉枯病ニ關スル試驗

(一) 種類試驗
(二) 肥料試驗
(三) 豫防試驗

紅茶試驗所之部

第一 茶樹栽培試驗

一 肥料同價試驗

二 敷草試驗

三 剪枝試驗

四 剪枝時期試驗

五 マンガン刺激試驗

六 磷酸効力試驗

第二 指導製造

三三

三四

三五

三六

三九

三九

雜 之 部

第三 綠茶試驗并ニ指導

第四 傳習生養成

第五 其他

第一 見習生

第二 講習會

一 長期農事講習會

一 高等農事講習會

第三 出張

第四 印刷物

第五 種畜種禽種苗配布其他

第六 職員

四二

四三

四三

四四

四四

四五

四五

四六

四七

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
...

大正元年度業務功程報告

普通作之部

作況梗概

水稻作ハ六月中旱天打續キ灌水不充分ニシテ挿秧一般ニ遅延シ七月上旬漸ク挿秧ヲ了セリ然ルニ七月二日半夏生ヨリ俄ニ多雨濕潤ノ天候ニ變ジ土用中迄ハ多雨曇天打續キ稻ノ生育軟弱分蘖少ク各所ニ稻熱病ノ發生ヲ見ルニ至リ頗ル悲觀ノ狀況ヲ呈セシモ八月ニ入り天候恢復晴天持續セシ爲メ生育ノ面目一新セシニ九月下旬ヨリ十月上旬即チ登實ノ期ニ至リ晴雨交々臻リ冷氣頓ニ襲來シ加フルニ強風暴雨屢ナリシタメ胡麻稻熱ノ發生夥シク稈瘡、批ヲ生ジ豊作ト稱シ難キニ至レリ虫害ニアリテハ夏季浮塵子ノ發生夥多ナリシモ驅除効ヲ奏シ大害ヲナスニ至ラザリキ

冬作ニアリテハ作付十二月上旬ニ終了セシガ多濕温暖ナリシヲ以テ發芽例年ヨリ三日以上ヲ促進セラレタリ一月ニ入り天候恢復シ二月中旬以降麥ノ生育期間ハ多雨且氣温高カリシタメ稍徒長ノ觀ヲ呈シ分蘖充分ナラズ稍作況ノ如何ヲ疑ヒシモ三月下旬以來開花抽穗ニ至ル間晴燥夜冷ノ状態ニ變ジ開花結實ノ作用完全ニ行ハレ爾後收納ニ至ル迄所謂麥腐ラシノ雨ナリ充分ノ乾燥ヲ施シ收穫スルヲ得優ニ中作以上ノ收納ヲ了スルヲ得タリ

薯苔作モ略同様ノ經過ニシテ丈高キ割合ニ亞枝ノ發生少カリシヲ遺憾トセシモ菌核病ノ發生少カリシヲ以

テ適度ノ收穫ヲ了セリ

第一 水稻作 (圃場試驗)

(一) 水稻作種類試驗

前年ヨリ繼續試作セルモノニシテ梗稻各種ノ收量品質ヲ比較シ本縣所適ノ良種ヲ撰定セントスルニアリ設計早種七種中種十五種晚稻六種ヲ各區貳拾坪宛ニ畫シ試作セリ共ニ試驗ノ精密ヲ計ルノ目的ニテ二區制ニヨル今累年七ヶ年ノ平均收量ヲ見ルニ早稻ニテハ郡益ヲ第一位トシテ穀良都荒木之ニ次グ中稻ニテハ天狗第一位ニシテ雄町御成所白玉ノ順位ナリ晚稻ニテハ神力第一位ニテ目利青擇之ニ次グ

(二) 豊凶考照試驗

毎年同一ノ地ニ於テ同一ノ種類早、中、晚、各二種宛ヲ栽培シ一定ノ時期ニ於テ生育ノ狀況ヲ調査シ以テ當年ノ豊凶ヲトセントスルニアリ今成績ニヨリ見ルニ早、中、晚、平均收量一、七六二ニシテ之レヲ前年平均收量二石五斗四升一合ニ比シ七斗八升一合ノ減收トナリ前七ヶ年平均收二石三斗九升一合ニ比シ六斗二升九合ノ減收トナレリ是ニ依リ之ヲ見レバ本年ノ夏作ハ近年稀ナル不作タルヲ免レザル也

(三) 種子變換不變換試驗

多年本場ニ栽培セル種子ト新ニ原產地ヨリ取寄セタル種子トヲ比較栽培シテ收量ノ多寡品質ノ良否ヲ檢定セント欲シ各區一畝歩宛ヲ畫シ左ノ五種ヲ試作セリ

中稻	企救産	白玉	本場産	白玉	糸島産	萬作	本場産	萬作
	岡山産	雄町	本場産	雄町				
晚稻	兵庫産	神力	本場産	神力	佐賀産	目利	本場産	目利

右試驗累年ノ平均ニヨレバ交換セル種子ハ然ラザルモノニ比シ必ず勝レルモノト思考セラレザルナリ即チ萬作、雄町ノ他ハ凡テ本場産ノモノ收量多キヲ見ル是ニ依テ見レバ若シ種子ノ撰擇法精密ナランニハ強テ數年毎ニ原產地ノ種子ト交換スルノ必要ナキガ如シ

(四) 深淺耕鋤對施肥用量試驗

耕土ノ深淺ノ得失並ニ之ニ對スル施肥ノ用量ヲ檢定セントシ明治卅八年ヨリ繼續試驗セリ各區二畝歩宛ヲ畫シ左ノ如ク設計セリ

三寸耕肥料少量區同肥料多量區六寸耕肥料少量區同肥料多量區八寸耕肥料少量區同肥料多量區
施肥ノ種類ハ凡テ堆肥、大豆粕、過磷酸石灰ノ三種ニシテ多量區ハ少量區ニ比シ堆肥百貫大豆粕五貫過磷酸石灰二貫五百匁ヲ多用セリ今累年八ヶ年ノ平均收量ヲ比較スルニ耕土ノ深キニ從ヒ増シ肥量多量區ハ少量區ニ比シ常ニ收量ヲ増加セリ是レニヨリ見レバ耕土ハ成可ク深ク耕起シ從テ施肥量ヲ増加スルノ要アルヲ認ム

(五) 綠肥効力試驗

綠肥ノ栽培ヲ普及セシメ金肥ノ使用ヲ節約シ經濟上ノ得失如何ヲ知ラント欲シ累年金肥ニ比較シ青苧大豆紫雲英ヲ施用スルニアリ各區貳畝步宛ヲ畫シ次ノ如ク設計セリ大豆相區、大豆粕堆肥區、青苧大豆區、青刈大豆木灰區、紫雲英區、紫雲英木灰區ノ六區トス成績略前年ニ同ジク綠肥ノ經濟的ナルヲ認ム

(六) 硫酸安母尼亞追肥時期試驗

水稻ニ對スル速効肥料ノ追肥時期ヲ知ラントシ四十步宛六區ヲ畫シ各除草期及穗采期等ニ施用セリ今四ヶ年ノ平均收ヲ見ルニ該肥ハ追肥期ノ後ル、ニ從ヒ收量ヲ増加セルモ品質粗惡ノ度モ之ニ附隨スルモノナルガ故ニ適當ナルハ四番除草前後ヲ可トスルガ如シ

(七) 種類對施肥用量試驗

水稻ノ品種ハ肥料ニ對スル吸收力ニ差アルヤ且ツ施肥ノ適量ヲ知ラント欲シ本縣ニ栽培セラル、早中晚ノ主ナル者種類三種ニ就キ各一畝步宛九區ヲ畫シ本場最多肥料、普通肥料、比較的少量肥料ノ三種ノ用量ヲ施與シ試驗セリ本年ノ成績ニ依レバ最多肥料ノ神力收量ハ最小肥料ノ神力收量ニ比シ壹斗四升九合多收ナリシ今若シ金肥ノ價格並ニ後作ノ收量ヲ計算比較セバ結果自ラ判然スベキモ未ダ初期ニ屬スルヲ以テ之レヲ省ク

(八) 各種肥料ノ窒素効力並ニ跡作地力試驗

各肥料ノ含有セル窒素ノ肥効ヲ知ラント欲シ各區貳畝步宛ヲ畫シ次ノ肥料ヲ成分等量ニテ施用セリ

一、堆肥、紫雲英、大豆粕、油粕、餅粕ノ五區トス本年ノ成績ニ依レバ最多收ハ大豆粕、最小收ハ堆肥區ナリシ後作ハ無肥料ニテ地力ノ關係ヲ見ント欲ス

(九) 石灰窒素肥効試驗

石灰窒素ノ肥効ヲ大豆粕ニ比較シ經濟上ノ得失ヲ驗定セントスルニアリ本年ノ成績ニ依レバ前者稍收量多カリシ尤モ生育期間ニ於ケル景況ハ石灰窒素ノ奏効顯著ナリシモ登熟ノ際天候不順ナリシ爲メ倒臥收量ヲ減ゼシガ如シ尙回ヲ重テ報告セントス

(十) 稻ノ品種對株數並ニ本數試驗

水稻各品種ノ株數並ニ本數ハ如何ナル程度ヲ有利トスルヤヲ檢定セント欲シ中稻雄町、晚稻神力ノ二種ニ就テ一區廿步宛十六區ヲ畫シ次ノ如ク試作セリ
晚稻神力本數、三本、五本、七本、九本、全上株數、四十二株、四十九株、五十六株、六十四株
中稻雄町本數、四本、六本、八本、十本、全上株數、四十二株、四十九株、五十六株、六十四株
本年ノ成績ニヨレバ神力ニ於テハ三本插四十九株收量尤モ多ク中稻雄町ニテハ四本插六十四株最モ收量多カリシ尙回ヲ重テ報告スベシ

第二 麥 作 (圃場試驗)

(一) 裸麥種類試驗

前年ヨリノ繼續試驗ニシテ累年平均收最多ナルハ於七ナルモ品質稍劣リ莖幹倒臥シ易キ欠點アリ竹下三島之レニ次ギ多收ニシテ品質善良ナリ三島ハ稍早熟ナルモ長幹ニシテ稍弱シ

(二) 大麥種類試驗

裸麥ト同ジク繼續試作セリ累年平均收六角シユバリエー收量最多ナレ共晩熟ノ欠點アリ淀橋之ニ次ギ多收ナルモ長幹倒臥シ易シ

(三) 挾土試驗

麥生育中作條間ニ土入ヲ行ヒ收量ニ及ボス影況ヲ知ラント欲シ四十二年ヨリ繼續施行セリ區數ヲ無挾土ヲ標準トシ一回挾土、二回挾土、三回挾土ノ四區ニ分チ二月中旬ヨリ三月中旬ノ間ニ實施セリ累年ノ成果ハ二回挾土收量尤多シ

(四) 肥料施用試驗

四十三年ヨリ繼續左ノ四區ニ分チ試驗セリ

第一、堆肥全部ヲ元肥トシ其上ニ土ヲ置キ播下スルモノ

第二、前區ト同一ナルモ間土ヲ置カズ直ニ播下ス

第三、下種後堆肥ノ全部ヲ施ス

第四、第三ト同ジキモ堆肥ノ半量ヲ追肥トス

前二ケ年ノ成績ニヨレバ第四區尤モ多收ニシテ第一區尤モ劣等ナリ

(五) 播種法對播種量試驗

播種量並ニ播種法ノ收量並ニ熟期ニ及ボス影響ヲ知ラント欲スルニアリ播種量ハ三升、五升、七升ノ三種ニシテ播種法ハ各縱條、橫條、斜條ノ三法トシ凡テ九區ヲ設ケ試作セリ播種法ヨリノ成績ヲ見レバ橫條尤モ多ク斜條、縱條ノ順序ニシテ播種量ヨリスレバ七升、五升、三升ノ順ニシテ最多收ナルハ七升橫條ニシテ最劣等ナルハ三升縱條トス、熟期ニ於テハ殆ンド早晚ノ見解付カザルモ穗揃ノ整一且ツ稍早キハ七升ノ縱條トス

(六) 鎮壓試驗

前年ヨリ繼續試驗ニシテ無鎮壓區ヲ標準トシ一回二回三回ノ四區トシ一月中旬ヨリ二月中旬ノ間ニ施行セリ本期ニテハ三回鎮壓尤モ收量多シ平均收量ニテハ二回、三回、同一ニシテ他區ニ勝レリ當場附近ノ鎮壓ハ寒氣ノ爲メニアラズシテ寧ロ温暖ナル年ニ於ケル徒長ノ抑制ニ利アルモノ、如シ

(七) 豊凶考照試驗

毎年繼續試驗ニシテ裸麥、大麥、小麥各二種宛ニ就キ一定ノ時期ニ生育狀況ヲ調査セリ本年ノ成績ニヨレバ裸麥、小麥ハ前年ニ比シ減收ニシテ各種トモ前七ケ年平均收量ニ比シ減收ナリキ

(八) 小麥熟期促進試驗

小麥ノ熟期遅ル、ハ農家ノ尤モ困難スル所ナルヲ以テ其播種量ノ増加ハ熟期ニ關係アルヤヲ知ラントシ廿坪宛縦條時トシ次ノ播種量ヲ用ヒタリ(反當)二升、四升、六升、八升
成績ニ依ルニ播種量多キモノハ少キモノニ比シ僅ニ早熟ノ感アレドモ其差著シカラズ收量ハ漸次播種量多キニ從ツテ増加セリ

(九) 稻跡遺殘肥料試驗

前作水稻ニ施用セル綠肥ノ後作ニ及ボス影響ヲ知ラントシ前年ノ莖葉作トシ本年ハ裸麥ヲ以テ試驗セリ區數ハ大豆粕區後作、大豆粕木灰區後作、青苺大豆後作、青苺大豆木灰區後作、紫莖英區後作、紫莖英木灰區後作ノ六區トス本期ニ於テ前年ト同ジク青苺大豆ヲ施用セル後作區成績尤モ可良ナリキ

(十) 深淺耕耨對施肥用量試驗後作

水稻作當時ニ行ヘル耕耨ノ深淺及ビ之ニ對スル施肥料ノ多少ガ後作ニ及ボス關係ヲ知ルニアリ耕度ハ三寸、六寸、八寸ノ三種各二區トシ一區ハ肥料ヲ少クシ他ハ多量ヲ施セルモノ、後作ニシテ二畝歩宛六區トシテ裸麥ヲ以テ試驗セリ成績ハ深耕ニシテ施肥多量區ノ後作尤モ可良ナリ

(十一) 米麥共ニ優良品種ヲ撰定シ採種田ヲ設定ス

(十二) 小麥種類試驗

小麥十五種ヲ以テ試驗ス江島ハ收量多ク又葉澁病ニ罹ルコトモ少シト雖モ熟期遅キノ欠點アリ洋種モ亦

コレニ類ス故ニ油小麥、赤坊主、白坊主等ヲ選ブヲ可トス

第三 陸稻種類試驗

粳十六種糯四種ニツキ試驗セシニ粳ニテ收量多キハ晚生戰捷、金禾坊、都ノ城、金子、黒鬚順位シ霧島、大畑早生最少ニシテ米質ノ優良ナルハ金禾坊、金子、三重、オイラン、都ノ城ト順位セリ糯ハアラビヤ、静岡種收量米質共ニ佳良ナリ

第四 粟種類試驗

粳十四種糯六種ニツキ試驗セシニ粳ノ收量多キハ井上、國分、卷筆、駒繁場、吉利、十八坪、地摩、小萬石順位シ早生粟吉伊最少ニシテ品質ノ優良ナルハ卷筆、井上、國分、小萬石、竹ノ内等トス、糯ハデクワンダマシ、島原最多ニシテ嫁啼、赤粟最劣リ鶯、デクワンダマシ品質優良ナリ

第五 品種改良試驗

(甲) 稻品種改良試驗

- (イ) 特性調査 縣外優良品種八十四種ノ外本縣内ノ品種二百十七種ヲ蒐集シ一本植トナス
- (ロ) 品質並ニ腹白改善 四十三年度ヨリ繼續シテ萬作白玉雄町青撰目利神力ノ玄米播種ヲナス
- (ハ) 優良ナル變異種ノ選出 突然變異又ハ自然交配ニヨリテ生ジタル變異種五拾八種ヲ栽培ス
- (ニ) 純系選別 神力及雄町ノ二種ニ付純系ノ選別ヲ行ハン爲メ一本植トナス

- (ホ) 人工交種 四十三年度交種セル第二雜種ノ栽培及本年度更ニ交種ヲ行フ
- (ヘ) 稻胚ノ發育ニ關スル試驗 胚ノ發育ハ受精作用後幾何時日ナリヤ其發育ノ程度ニ就テ試驗ス
- (ト) 稻ノ開花ニ關スル試驗 稻穗各粒ノ開花順序、開花期間并ニ受粉作用ニ就テ試驗ス
- (チ) 發芽試驗 稻穗各粒ノ位置ト發芽トノ關係并ニ收穫期日ト發芽トノ關係ニ就テ試驗ス
- (リ) 種子ノ劣變程度試驗 精選セル種子ト其然ラザルモノトヲ比較シテ種子ノ劣惡スベキ程度ヲ試驗シ併セテ種子交換ニ關スル問題ノ參考トス
- (ヌ) 收穫期ト種子トノ關係試驗 種子用トシテノ適當ナル採收期ヲ檢セン爲メ一定期間毎ニ收穫セルモノニ就テ試驗ス
- (ル) 委託試驗 各種外界ノ不良狀態ニ適應セル品種ヲ選出スルハ極メテ必要ナルヲ以テ本年度ニ於テハ先ヅ洪水地ニ於ケル委託試驗ヲ行フ翌年度ヨリハ更ニ耐鹽、耐旱、耐冷水、耐寒冷地等ニ對スル試驗ヲ行ハントス
- (乙) 麥品種改良試驗
 - (イ) 特性調査 縣内ニ普通ナル品種二百十一種ヲ蒐集シ一粒蒔トナス
 - (ロ) 人工交種 四十三年度交種セル第二雜種ノ栽培及本年度更ニ雜種ヲ行フ
 - (ハ) 發芽試驗 大小麥ニ就キ收穫期ト發芽トノ關係ヲ試驗ス

第六 水稻作木框試驗

室素肥料比較試驗(第四回) 試驗ニ供セシハ大豆粕、大豆、蠶豆、硫酸安母尼亞、鰵粕、紫莖英ニシテ本年ノ成績ハ大豆粕區最モ優良ナリキ

磷酸肥料比較試驗(第四回) 米糠、骨粉、磷酸曹達、過磷酸石灰ニ付其肥効ヲ試驗セシニ今年ノ成績ハ米糠ノ收量最モ優良ナリキ是レ米糠ハ有機質ニ富ミ漸次土壤肥沃トナリタルニテ磷酸ノ關係ノミニハアラズ而シテ最モ成績ノ劣等ナリシモノハ磷酸曹達ヲ施用セルモノナリキ

石灰室素肥効試驗(第四回) 石灰室素ト硫酸安母尼亞トノ肥効ヲ比較セシニ大体ニ於テ石灰室素ノ肥効ハ硫酸安母尼亞ニ優リ殊ニ石灰室素ニ過燐酸及硫酸加里ノ如キ酸性肥料ヲ配合セシモノハ磷酸曹達炭酸加里ノ如キ鹽基性肥料ヲ配合セルモノヨリモ成績優良ナリキ

石灰連用試驗(第四回) 石灰ノ用量ハ廿五貫、五十貫、百貫、二百貫、三百貫ニシテ百貫迄ハ無石灰區ヨリモ其成績優良ナリ

米糠施用試驗(第一回) 米糠ヲ施用スルニ醱酵分解セシメタル後ニ行フト其儘施用スルト何レガ其肥

効大ナルヤヲ試驗セルモノニテ最初ノ生育狀況ハ分解施用セルモノ遙カニ優良ナリシモ其成熟後種實ノ收量ハ分解セズシテ生態ノ儘施用セルモノ却ツテ優良ナリキ

石灰施用期試驗(第一回) 石灰ヲ施用スルニ追肥元肥何レカ其効大ナルヤヲ試驗セントス其試驗區ハ

一、插秧十五日前施用

二、插秧三日前施用

三、插秧廿日後施用

ノ三區ニ分テリ其成績ニ依ルニ第一區最モ其成績優良ニシテ廿日後施用セルモノ之ニ次グ

第七 水稻鉢試驗

各郡模範農場土壤三要素試驗(第三回) 各郡模範農場ノ土壤ニ就キ三要素ノ影響如何ヲ試驗セルモノニテ尙ホ繼續試驗中ナリ

新田原酸性土壤石灰加用試驗 水稻ニ對シテ石灰中和ノ結果ヲ試驗セルモノニテ其成績ニ依ルニ此土壤

ニ對シテハ石灰ノ効果畑作ノ場合ノ如ク顯著ナラズ稍過量ニ用ヒタルモノハ其害酸性ノ影響ヨリモ却ツテ

甚シキヲ見ル陸稻ニ於テモ然ルヲ見タリ

黒土石灰加用試驗 黒土ニ對シ石灰ノ效果ヲ試驗セシニ畑作ニ於テハ其結果頗ル優良ナルニ反シ水稻ノ

場合ニハ其効果顯著ナラズ其量稍多量ナル時ハ却ツテ生育ヲ阻害ス

黒土ニ對スル三要素試驗 黒土ニ對シ三要素中何レカ其効大ナルヤヲ試驗セシニ普通ノ土壤ニアツテハ窒素ノ影響最大ナルニ反シ此土壤ニアリテハ窒素ヨリモ磷酸ノ肥効却ツテ大ナリ加里ノ影響ハ普通ノ土壤ニ於ケル場合ト異ラズ

園藝作之部

(甲) 蔬菜

第一 品種選擇試驗

(一) 瓜哇薯種類試驗

八種ニツキ試驗セシニ四ヶ年平均收量多キハアロー、ロース、柳川白、リバーバンク、スノーフレ
ーキ。順位セルモ本年ハ柳川白、スノーフレキー、種最高ニシテ品質モ亦良好ナリシ

(二) 里芋種類試驗

本試驗ニ供セシ四種中收量最多ナルハハツ頭、一年芋ニシテ早生芋收量最モ少シ

(三) 葱頭種類試驗

本試驗ニ供セシハ黃、赤、白色ノ三種ニシテ收量ノ最多ナルハ赤色種黃色種之レニ次ギ白色種最少ナルモ品質ハ白色種反リテ優良ナルモ貯藏稍困難ナリ

(四) 蘿蔔種類試驗

本年ハ前年ニ掘込ニ美濃早生ノ二種ヲ加ヘ十四種ナリシモ中途櫻島ノ早、中、晚種ハ病害ノ爲メ全滅セリ而シテ收量ノ最多ナルハ丸尻練馬、美濃早生、聖護院、鞍馬口、宮重、順位シ守口島大根最モ劣レリ品質ハ例年ト等シク煮食用トシテハ宮重、聖護院、方領、美濃早生ニシテ練馬、東光寺ハ漬物用トシテ良好ナリ

(五) 蕪菁種類試驗

本試驗ニ供セシハ八種ニシテ收量ノ最多ナルハ聖護院蕪菁、白小蕪菁、近江蕪菁順位シ伊豫緋蕪菁最モ劣レリ品質ハ白小蕪菁、聖護院蕪菁ヲ優良トス

(六) 午苧種類試驗

六種ニツキ試験セシモ天候ノ爲メ瀧ノ川、砂川種、梅田ヲ除ク外根部腐敗セシヲ以テ適期ニ達セズ收穫セシガ殘種ハ砂川種第一位ニシテ梅田種之レニ次ギ瀧ノ川種最モ劣レリ

(七) 胡蘿蔔種類試驗

七種ニツキ試験セシニ收量ノ最多ナルハ博多種ニシテ札幌種、金時種、東京種之レニ次ギ三寸種最モ劣レリ

(八) 茄子種類試驗

十四種ニツキ試験セシニ收量最多ナルハ三島種、吾妻種、蔓細干成種ニシテ清國大圓種最モ劣レリ而シテ例年ト等シク清國大圓、佐土原、肥後大長種ハ立枯病ノ被害多シ

品質ハ煮食漬物用トシテ博多長、南部長種優良ナリ

(九) 胡瓜種類試驗

七種ニ付キ試験セシニ收量ノ最多ナルハ博多胡瓜種、三尺種、針ヶ谷種ニシテ佛國種最劣ナリ而シテ品質ハ博多長優良ニシテ結顆初終一様ナリ

(十) 南瓜種類試驗

八種ニツキ試験セシニ收量ノ最多ナルハハツバート、縮緬種、西京種ニシテ大黒早生種最モ劣レリ品質ハ縮緬種、菊座種、早生種優良ナリシ

(十一) 西瓜種類試驗

五種ニツキ試験セシニ收量ノ最多ナルハ内黒大西瓜種ニシテ在來種之レニ次ギ、アーロー、エネセルコア種。最少ナリ、品質ハアイス、クリーム種優良ナリ

(十二) 越瓜種類試驗

五種ニツキ試験セシニ收量ノ最多ナルハ東京大越瓜ニシテ節成種豊年種之ニ次ギ青大越瓜最モ少ナカリシ

(十三) 甘藍種類試驗

六種ニツキ試験セシニ收量ノ最良ナルハアーリー、サンマー、オール、シーズン。サクセツション。種ニシテダニツシユボール。最少ナリ結球歩合品質共ニ優良ナルハサクセツション。オールシーズン。種トス

(五) 苣類種類試験

十一種ニツキ試験セシニ收量ノ最良ナルハ直隸白菜、北京白菜ニシテ壬生菜最少ナリ結球白菜中開城白菜、金州白菜良好漬菜用トシテハ本場白菜最モ佳良ナリ

第二 瓜哇薯畦幅試験

畦幅ト收量トノ關係ヲ知ラント欲シ畦幅二尺、二尺五寸、三尺、三尺五寸、四尺、四尺五寸ノ六區ニ分チ前五ケ年試験セシニ平均收量ニ於テ三尺五寸區第一位ヲ占メ三尺區四尺區之レニ次ギ二尺區最少シ

第三 葱頭挫折試験

莖部ヲ挫折スルト球莖ヲ露ハスト否トハ收量ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラント欲シ四區ニ分チ試験セシニ既往五ケ年ノ累年平均收量ハ土壤ヲ搔キ除キ球莖露出セルモノ最良ニシテ何等ノ手入ヲナサザルモノ之レニ次ギ莖ヲ挫折シ球莖ヲ露出セルモノ最モ少シ然レモ苗ノ強弱天候ノ適否トニヨリ一軌ナラザル事アルモ生育旺盛花莖生ズル憂ヒアル時ハ莖部ヲ挫折シ球莖ヲ露出スルヲ可トス

第四 葱頭苗大小比較試験

苗ノ大小ニヨリ收量ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラント欲シ大、中、小ノ三區ニ分チ試験セシニ大苗ハ勢力旺盛ニ過ギ花莖ヲ生ズル事多ク小苗ハ球莖小ニシテ收量少ク中苗即長サ六寸内外直莖一分内外ノモノ優良ナリシ

第五 葱頭直播移植比較試験

直播ト移植トノ收量ニ及ボス關係ヲ知ラント欲シ試験セシニ直播區ハ草勢旺盛ニシテ花莖ヲ生ズルモノ多ク移植ノモノヨリ收量少キコト四十二貫ナリ

第六 胡瓜整枝試験

整枝ノ如何ニヨリ收量品質ニ及ボス關係ヲ檢知セントシ試験セシニ倒伏ノモノヨリ垣作ノ類眞直ニ品質佳良ナリ收量ハ三本立テノモノ兩法共ニ最多ナリ

第七 南瓜摘心試験

南瓜ハ幾枚目ヲ摘心スルヲ可トスル乎ヲ知ラントシ試験セシニ六枚目摘心區最多ノ收量ヲ得四枚目摘心ノモノ最少ナリ

第八 西瓜窒素等量試験

窒素質肥料中西瓜ニ對スル効能如何ヲ檢セントシ人尿、鯀粕、大豆粕、菜種油粕、硫酸安母尼亞、智利硝石ニ就試験セシニ收量ノ最多ナルハ鯀粕ニシテ智利硝石、大豆粕之レニ次ギ油粕最モ劣レリ而シ

テ鯨粕ヲ用ヒタルハ蔓ノ徒長少ナク結顆多ク品質佳良ナルニ反シ智利硝石、硫酸安母尼亞、大豆粕、人屎尿ハ蔓ノ發育旺盛ニ失シ顆數少ナク大顆ヲ産スルモ甘味少キノ感アリ

第九 甘藍苗假植比較試驗

甘藍苗假植ノ效果如何ヲ知ラントシ一回、二回、三回、假植ノ三區ニ分チ試驗セシニ假植數ノ少ナキハ結球歩合少ク品質劣ルモ球形大ナルヲ以テ収量多カリシ

第十 甘藍ニ對スル石灰窒素効力比較試驗

石灰窒素ノ甘藍ノ結球及品質ニ及ボス効力如何ヲ知ラントシ無石灰窒素區一本五匁、施用區及一本十三匁施用區ノ三區ニ分チ試驗セシニ石灰窒素ヲ施用セル量ノ多キ程結球歩合多ク収量品質共ニ良好ナリ然レモ定植ノ際往々枯死スル事アルヲ以テ早クヨリ施用シ置クコト肝要ナリ

第十一 蔬菜對窒素質肥料試驗

前年ヨリノ繼續ニシテ普通農家ノ慣用スル各種窒素質効驗如何ヲ檢出セントシ人屎尿區、鯨粕區、大豆粕、菜種油粕、硫酸安母尼亞、智利硝石、石灰窒素區、米糠區ノ八種ノ肥料ヲ山東白菜、壬生菜及聖護院蕪菁ニツキ試驗セシニ總収量ニ於テハ概シテ硫酸安母尼亞、智利硝石最多ニシテ菜種油粕、大豆粕最モ劣レリ

(乙) 果 樹

第一 見 本 園

前年ヨリノ繼續ニシテ左記ノ品種ヲ定植セリ

(一) 柑 橘 類

温州。極柑。雪柑。柑。文旦。ワシントンネーブル。トムソンインブルーブド、ネーフル。メヂテラニヤン、スウキート。ジヨバ。マルヲース、ブラッド。ルビー、ブラッド。ブーグ、ド、フルール。バレンシヤレート。レモン。

(二) 柿

富有 次郎 正月 キャラ 天神御所 富士
横野 祇園坊 堂上蜂屋 西條 稻山 衣紋
葉隱

(三) 梨

眞 鑰 獨 逸 博 多 長十郎 今村夏 太白
太 平 早生赤 今村秋 晚三吉 バートレット ジュセスダン
グリレーム
キツハー ウイターネリス ルイスボン ドゼルシー

(四) 桃李及杏

ブリクスメー アムスデンジュン トライアンブ プレコーズドリロンセル
 アーリーリーバース カールマン アーリーニューウイントン 天津水蜜桃
 離核水蜜桃 土用水蜜桃 上海水蜜桃 金桃 米桃
 寺田李 大實杏

(五) 葡萄

ゼツシカ ゲリオンマウンテン スウキートウオター コールデン
 アデロンダツク ハートフォードフロリヒツク キャンベルスアーリー
 チャンピオン レディーワシントン ナイヤガラ ベーコン
 トンルトン ハイランド ボクリントン ゴールデンチャンピオン

甲洲

(六) 菜果

紅魁 クーバスアーリー 祝 旭 國光

(七) 枇杷

立花 田中 茂木 鹿兒島白

(八) 無花果

ホワイトゼノアー ブラウンターキー

(九) 櫻桃

ゼガローグラン ブラックタータイアン

第二 整枝果樹

本年ハ更ニ梨棚造リ立樹造リ葡萄棚及株作リノ各種整枝法ヲ増加セリ

第三 苗圃

苗木ノ砧木對接穂試驗
 柑橘春夏秋冬芽ノ接着及發育比較試驗
 柑橘ノ芽接試驗
 柑橘接穂ノ長短ト生育ノ比較試驗
 葡萄苗挿方試驗
 以上ノ外前年繼續試驗ヲ行フ

第四 室内葡萄栽培

從來ノ品種ノ外更ニ タムソン、シードレス。レレーム、トケイ。ロース、オプ、ベリユー。エン
 ペアー。ジユンハンデル。マスカット

第五 柑橘貯藏試験

左ノ方法ニヨリ試験セリ

(一) 收穫期試験

十一月五日採集

十一月廿五日採集

十一月卅日採集

十二月五日採集

十二月十四日採集

十二月十五日採集

(二) 結果枝ノ位置ト貯藏力試験

樹頂枝類

側枝類

樹内陰枝類

下垂枝類

(三) 栽培地ノ位置ト貯藏力試験

陽地產類

陰地產類

山地產類

平地產類

干地產類

濕地產類

(四) 栽培地質ト貯藏力試験

砂地產類

粘土地產類

礫地產類

(五) 樹勢ノ強弱ト貯藏力試験

肥強樹產類

瘠薄樹產類

(六) 收穫法ト貯藏力

袋入採收類

フゴへ採收類

籠へ採收類

箱へ採收類

(七) 果皮ノ厚薄ト貯藏力

厚皮類

薄皮類

(八) 樹上着色類ト普通類トノ貯藏力

普通ノモノ

三週間前尿ヲ散布シ收穫セルモノ

(九) 消毒ノ効力試験

硫酸銅液(一%)三分間浸。 鹽化石灰液(二%)三分間液。 硼酸液(六%)三分間浸

(十) 箱貯藏中間詰材料試験

オトギ葉詰

檜葉詰

第六 罐詰試験

枇杷丸砂糖汁詰

蕃茄成熟及青熟鹽汁詰

青胡瓜ビクルス

第七 デヤム及ソース製造試験

蕃茄ソース

桃デヤム

莓デヤム

柿デヤム

第八 干柿製造試験

品種ト品質比較 砂地、礫地、粘土地、乾地、濕地、

産類ノ品質比較 顆色ト品質トノ關係

樹頂類下垂枝類ノ品質比較 手入法 削皮ノ厚薄及ビ陽乾陰乾法ノ品質比較

第九 苗木配布

- 一、桃苗ハ百五十八本ニシテ品種ハ左ノ如シ
 - アムスデンヂユン エルバルダー 六水蜜桃 離核水蜜桃 天津水蜜桃
 - 上海水蜜桃 小川水蜜桃 金桃 魁桃
 - 二、梨苗ハ百六十三本ニシテ品種ハ左ノ如シ
 - 長十郎 獨逸 赤穂 明月 泡雪
 - バート、レット 早生赤 ホロイトベヤー ルコンター
 - 三、葡萄苗ハ八十三本ニシテ品種ハ左ノ如シ
 - ガトウバ ダイアナ コンコード ハートフォードフロリヒツク
 - キャンベルスアーリー ジュンハンデル ミルス イサベラ ブラツグハレブルグ
- 柑橘苗ハ二千七百六十九本ニシテ温州、ネーブル、夏橙等其他甘藍、花椰菜、葱頭、チシャ、茄子、胡瓜、南瓜、蕃茄等ヲ配布セリ

(丙) 花卉

都人及農家ニ趣味アル快感ヲ與ヘ試験場視察者ニ愉快ナル觀念ヲ起サシムル爲ニ花卉類ヲ培養シ二坪ト十

六坪トノ二棟ノ硝子室ヲ備ヘ又露地ニテハ一畝歩餘ノ花園ト十坪餘ノ花壇トヲ設ケテコレガ栽培ヲ行ヘリ

畜産之部

業務ノ主ナルモノハ種禽及種豚ノ配布ニシテ牛馬ハ役用兼繁殖用ニ供セリ

第一 牛馬

牝牛二頭ハ小値賀産ニシテ牝馬奉天號ハ濠州産ナリ共ニ性質温順役用兼繁殖用トシテ可良ナリ
 殊ニ小値賀牛ハ本邦在來種中ノ最モ優良ナルモノニシテ性質温順粗食ニ耐ユ且ツ行程大ナルヲ以テ繁殖用兼役用トシテ最優良種ナリ

第二 豚

本場飼養繁殖用種豚左ノ如シ

種	類	牝		合
		數	量	
バークシヤ		一	五	六
ヨークシヤ		一	二	三
				計

通計九頭ニシテ分娩セル仔豚ハ之レヲ配布ス

ヨークシャ種中大小二種アリ然シテ大ヨークシャハ體大ニ過ギ從ツテ飼養其他取扱ニ不便多シ故ニ農家副業的ニ養豚セント欲セバ小ヨークシャ種便ナルヲ以テ本場ニ於テモ是レヲ飼養セリ
 四拾五年度ノ配布數左ノ如シ

種	類	牝數		合計
		數	量	
バークシヤ		一〇	一三	二三
ヨークシヤ		一	二	三

廢豚ハハムベークン腸詰等ノ製造ヲナス

第二家 禽

一、鶏ノ種類甚ダ多ク特徴ニ至リテモ用途ニヨリテ各々異レリ然シテ本場ニ於テハ専ラ農家副業トシテ性質壯健粗食ニ耐エ利益割合ニ多シト認ムル左ノ五種ヲ撰ビテ専ラ是レガ繁殖配布ヲ計ル方針ヲ立テタリ然シテ未ダ全部取揃ヘノ運ニ至ラズ

卵用種

(イ) 黒色ミノルカ 地中海沿岸種中體形最モ大壯健一ケ年ノ産卵百八九十個ニ達スル一ケノ重量十七匁以上時トシテハ二十匁ノモノヲ産スルコアリ

卵肉兼用種

(ロ) 白色レグホーン 産卵數最モ多ク一年優ニ二百個ヲ産シ食量少ク卵用種中最優良種ナリ
 (イ) 名古屋コーチン 體質壯健ニシテ粗食ニ耐エ肉量一貫百匁位アリ産卵數モ年百七十個位アリ
 (ロ) 横班ブリモースロツク種 實用的兼用種トシテ最モ優良ナルモノニシテ壯健産卵百六七十個ニ達ス

肉用種 淡色ブラマ 肉甲種中最良體質極メテ壯健重量一貫四百匁位アリ
 他ニ支那鷄ヲ飼養セリ

種禽種卵トシテ配布數左ノ如シ

種	類	雛		卵數
		拂	下	
黒色ミノルカ		一	五	五八
白色レグホーン		一	四	七八
褐色レグホーン		一	九	九〇
名古屋コーチン		四	二	三四
横班ブリモースロツク		一	二	一〇四

計	一	〇	二	三	六	四
拂下數	雛	一百〇二羽	卵	三百六十四個		
四十五年度末現在種禽數左ノ如シ						
種	類	雄		雌		
黑色	ミノルカ		一			二
白色	レグホーン		一			二
褐色	レグホーン		一			五
名古屋	コーチン		二			九
横班	プリモースロツク		一			六
計		六				二四

飼料 四十五年度中使用セシ飼料左ノ如シ

- 穀物 大麥 小麥 裸挽割 玄米碎
- 精類 穀 麥 糠 米 糠 芽 才

動物質 田作り 鯨ノ粕 イナゴ

其他木炭末、蠟殼、等時々練餌ヲ混ジ給ス

朝 練餌、穀、麥糠、田作り、米糠、蠟殼、青菜、木炭末等ヲ混ジ

晝 大麥ノ播餌

夕 小麥ノ播餌

普通右ノ如シ但時々變更スルコアリ

蠶業之部

第一 一化性第一化春蠶種類試驗

(一) 試驗ノ目的 優良種ト認タル一化性春蠶種ニ就キ其特性優劣ヲ比較調査シ以テ良蠶種ヲ選出セントス

(二) 試驗供用蠶 供試蠶種ハ本場製造ニ係ルモノニシテ左記ノモノトス

- 蠶種
- 青熟種 九、〇
- 大又昔種 四、五
- 波又昔種 四、五
- 本又昔種 一、五
- 本邦種
- 掃立蠶量數

支那種 大圓頭種 一、五
下木村種 一、五

(三) 蠶兒ノ經過 各種共ニ四月二十日ニ掃立ツ飼育中種類ニヨリ多少ノ遲速アリト雖モ經過良好ニシテ
支那種ハ五月十九日本邦種ハ五月廿四日無事上簇ヲ結了セリ

(四) 成績ノ概況 飼育、成繭及絲質調査ニヨリ得タル結果ヲ概括シ順位ヲ定ムレバ左ノ如シ

- 第一位 青熟種 資性强壯ニシテ品質亦優良供試蠶中第一位タリ
- 第二位 波又昔種 蟲質健全糸質佳良ナレモ收繭高前者ニ劣レリ
- 第三位 大又昔種 飼育容易ナレモ品質ニ於テ前者ニ及バス
- 第四位 本又昔種 前者ト大差ナキモ稍下位ニアリ

支那種 第一位 大圓頭種 虫質壯健飼育容易糸質亦優良ナリ
第二位 下木村種 前者ト徑庭ナキモ收繭量稍少ナシ

第二 二化性第二化夏蠶試驗

(一) 試驗ノ目的 本試驗ハ蠶兒發育ノ難易、成繭ノ優劣、糸質ノ良否ヲ查覈シ以テ夏蠶種ノ良種ヲ驗出セントス

(二) 供試ノ蠶種 試驗ニ供シタル蠶種ハ本場製造ニヨル生種ニシテ種類及蟻量ハ次ノ如シ

化性化期	種名	蟻量
------	----	----

二化性第二化 白錦種 三分

全 新屋種 三分

全 朝鮮丸種 三分

(三) 蠶兒ノ經過 各種トモニ六月十七日掃立何レモ七月十二日發育佳良ノモトニ上簇ヲ結了セリ

- 第一位 新屋種 蟲質強壯飼育容易絲質亦優良ナリ
- 第二位 朝鮮丸種 絲質前者ニ伯仲スレモ品質稍劣レリ
- 第三位 白錦種 資性前者ニ及バス品質亦下位ニアリ

第三 二化性第一化秋蠶試驗

(一) 試驗ノ目的 越年二化性第一化ニ付キ諸般ノ成績ヲ查覈シ種類ノ良否ヲ判別セントスルニアリ

(二) 試驗ノ蠶種 供試蠶種ハ長野縣稻扱風穴ニ貯藏セル本場製ノ蠶種ニシテ入、出穴掃立月日及掃立蟻量ハ左表ノ如シ

化性化期	種類	入穴月日	出穴月日	到着月日	掃立月日	掃立蟻量
二化性第一化	中巢種	二月廿八日	七月四日	七月九日	七月十四日	一、〇

二化性第一化	白龍種	二月廿八日	七月四日	七月九日	七月十四日	一、〇
全上	日本錦種	全	全	全	全	一、〇
全上	豐白種	全	全	全	全	一、〇
全上	新屋種	全	全	全	全	一、〇
全上	青熟種	全	全	全	七月十六日	一、〇
矢ノ羽	矢ノ羽種	全	全	全	七月十四日	一、〇

(三) 發育ノ概況 掃立後發育ノ經過何レモ良好ニシテ青熟種ハ八月四日ニ他ハ何レモ八月二日無事上簇ヲ終了セリ

(四) 試驗ノ成績 試驗ノ成績ヲ綜合シテ其ノ優劣ヲ概説スレバ左ノ如シ

- 第一種 青熟種 蟲躰健全ニシテ良ク發育シ糸量糸質共ニ優良ナリ
- 第二種 白龍種 躰質頗ル壯健糸質モ前者ニ次ギ佳良ナリ
- 第三種 中巢種 品質佳良ナレモ蟲質稍虛弱ナリ
- 第四種 新屋種 躰質壯健ナレモ蟲躰稍小ナリ
- 第五種 日本錦種 品質優良ナレモ收繭量著シク少量ナリ

第四 蠶業傳習生養成

(一) 蠶業傳習生ノ入場 四十五年一月三十日蠶業傳習生拾五名ヲ入學セシメ蠶業ニ關スル學科及實習ヲ傳授ス

(イ) 第一期(一月ヨリ三月マデ) 左ノ通りノ學科ヲ課ス

- 養蠶論 蠶躰病理論 土壤肥料論
- 育種論 昆虫總論

(ロ) 第二期(四月ヨリ九月マデ) 左ノ通り實習ヲ課ス

- 蠶病消毒 桑樹栽培 春夏秋蠶飼育
- 蠶種製造 乾繭貯藏 蠶躰解剖
- 蠶種繭生絲審査 顯微鏡使用 蠶具製造

(ハ) 第三期(十月ヨリ十二月マデ) 左ノ如ク學科ヲ課ス

- 蠶業汎論 夏秋蠶飼育法 蠶躰解剖生理論
- 桑樹栽培法 製絲法 氣象學

顯微鏡使用法 蠶業法令規則

(二) 蠶業傳習生ノ卒業 試驗ニ合格セルモノニ對シ大正元年十二月廿四日卒業證書授與式ヲ舉行シ卒業證書ヲ授與ス

蠶業傳習卒業生郡氏名

筑紫郡	三宅淺雄	糟屋郡	長九郎
糸島郡	池登志	宗像郡	方丸精一
京都郡	田中章	大分縣	上田樂山
糟屋郡	河邊卯平治	糟屋郡	都地梅次郎
三井郡	田中庫次	筑紫郡	岡部定三郎
糟屋郡	岩隈伴藏	築上郡	井上岩次郎
筑紫郡	上野知三郎	三井郡	鐘ヶ江保
築上郡	矢野淳		

稻葉枯病ニ關スル試驗

四十年年度ヨリ繼續セル試驗ニシテ稻葉枯病ノ原因及誘因ヲ研究シ併テ之レガ豫防驅除ノ方法ヲ案出セント

シ既ニ病原ハ發見發表濟トナリタレバ昨年度ヨリ試驗ノ設計ヲ變ジ種類試驗、肥料試驗及豫防試驗(藥劑散布)ノ三種トス

(一) 種類試驗

各府縣ヨリ病害ナキ種類ヲ集メ又農商務省農事試驗場畿内支場ヨリ送附セラレタル新雜種ヲ移植シテ耐病性稻種ヲ撰出セントシ前者三十種後者十四種ヲ栽培セルニ被害ニ多少ノ差ハアルモ全ク無被害ノモノヲ發見スル事能ハザリシ然レニ被害極メテ輕少ナリシモノハ前者ニアリテハ三重縣須賀一本岡山縣日ノ出種ニシテ收量モ亦最モ多カリシ後者ニ於テハ比較的耐病性ノ品種多ク神力愛國ノ雜種ニハ殊ニ從來栽培セル種類ヨリ被害少ナキモノ多シ然レニ收量及品質ニ欠グル所アリテ僅カニ神力愛國二號及ビ神力愛國三號ヲ撰出セシニ過ギズ此ノ二種ハ耐病性及收量ニ於テモ全試驗區中第一位ヲ占ムルモノナリ神力龜治ノ雜種ハ收量多ク品質モ亦良好ナルモノ多キモ概シテ耐病性弱キヲ以テ全種類試驗中神力愛國二號神力愛國三號及神力龜治ハ號ヲ優良ナリトセリ

(二) 肥料試驗

(イ) 大豆粕ヲ原肥トシ之レニ木灰或ハ石灰ヲ原肥若クハ補肥ニ附加シテ本病豫防ニ資セントシ廿四區ヲ劃シ試驗セシニ大豆粕、施用ノ際ニハ木灰若クハ石灰ヲ加用スル事ハ頗ル有効ナルモノニシテ殊ニ注意スベキハ前年度ニ於テハ石灰効果顯著ナラザリシモ本年度ニ於テハ麥作跡地ハ石灰ノ効果木灰ニ優

リ紫雲英跡地ニ於テハ木灰ノ方石灰ニ優レルヲ發見セルト是ナリ

(ロ) 有機質肥料ノ分解ノ際生スル反應ガ本病ニ如何ナル關係アルカヲ知り兼テ中性肥料ノ配合ニヨリ本病ニ及ボス影響ヲ檢セントシ、**鯨粕區、油粕區、大豆粕區、大豆粕腐熟區、大豆粕中和區、大豆鹽基性區、青刈大豆區、紫雲英區、石灰窒素區、硫酸アムモニア區**等ヲ設ケ試驗セルニ被害最モ少ナカリシハ大豆粕鹽基性區青刈大豆區ニシテ被害最モ多キハ石灰窒素區、硫酸アムモニア區等ナリシ

(三) 豫防試驗

簡易ナル殺菌劑ノ撒布ニヨリ本病豫防ノ效果ヲ試驗セントシ石灰硫黃合劑、硫黃華、ホルマリン、石灰乳、糖化ボルドー液、石灰ボルドー液等ヲ各別ニ撒布セルニ被害全クナカリシハ糖化ボルドー液撒布區ニシテ石灰ボルドー液撒布區之レニ次ギ石灰硫黃合劑撒布區又之レニ次グリ要スルニ本病ハボルドー液撒布ニヨリ殆ンド豫防スル事ヲ得ルガ如シ

紅茶試驗所之部

四十年度ヨリ引續キ茶樹栽培試驗並ニ紅茶製造試驗ヲ行ヘリ其大要ヲ擧グレバ次ノ如シ

第一、茶樹栽培試驗

一、肥料同價試驗

肥料ノ種類及ビ其ノ用量ト收葉量并ニ生葉ノ品質トノ關係ヲ知ラン爲メ一畝歩ヲ一區トシ左ノ通り試驗セリ

第一區 無肥料區

第二區 人糞尿區 一株ニ付 五 合

第三區 菜種油粕區 全 八 勺

第四區 大豆粕區 全 一 合

第五區 堆肥區 一株ニ付 五百 匁

連年ヲ通シテ最モ收量ノ多キハ菜種油粕區ニシテ大豆粕區、人糞尿區之ニ次ギ生葉ノ品質ノ最良ナルモノハ人糞尿區及菜種油粕區トス

二、敷草試驗

夏土用中旱害豫防并ニ肥料ノ目的ヲ以テ施ス敷草ノ効力ヲ檢セントシ二區ヲ畫シ左ノ通り試驗セリ

第一區 敷草區 反當青草千貫ヲ敷込ム

第二區 非敷草區

連年ヲ通シテ敷草ノ効顯著ナリ

三、剪枝試驗

剪枝方法ノ適當ナルモノヲ檢定セン爲メ三區ヲ畫シ左ノ通り試驗セリ

第一區 淺刈區 前年剪枝點ヨリ一寸高ク刈ルモノ

第二區 深刈區 全上五分下ヨリ剪枝スルモノ

第三區 普通區 全上五分上ヨリ剪枝スルモノ

若木ニアリテハ淺刈區連年最多收量ヲ示セリ

四、剪枝時期試驗

二番芽摘採前ノ剪枝ノ得失及二番芽ノ收葉量ノ多寡ヲ比較セン爲メ左ノ通り試驗セリ

第一區 一番芽摘採後放置シテ二番芽ヲ摘採スルモノ

第二區 一番芽摘採後即時剪枝ヲナシ二番芽ヲ摘採スルモノ

連年ノ數量ハ第一區優レリ第二區ハ摘期五六日後ル、ヲ以テ勞力分配上又用ユベシ

五、マンガン刺激試驗

マンガン刺激ノ爲メ收量及製茶品質ニ及ボス影響ヲ知ランガ爲メ左ノ如ク試驗セリ

第一區 標準區

第二區 マンガン(鹽化マンガンノ形ニテ) 五百匁區

第三區 全 一貫匁區(二回分施)

第四區 全 一貫五百匁區(三回分施) 但シ各反當

マンガン施用區ハ收量多少増加セリ

六、磷酸効力試驗

磷酸ガ紅茶品質ニ及ボス影響ヲ知ラン爲メ一畝宛左ノ通り試驗セリ

甲、磷酸石灰ヨリ採ルモノ

第一區 標準區(原肥油粕二十貫追肥人糞尿二百貫)

第二區 過磷酸石灰 五貫加用區

第三區 全 十貫加用區

第四區 全 十五貫加用區

乙、米糠ノ磷酸ニ依ルモノ

第五區 米糠 二十貫區(菜種油粕十二貫、人糞二百貫)

第六區 全 卅五貫區(全 六貫、全 上) 七八

第七區 全 五十貫區(人糞尿二百貫) 九八

磷酸施肥ノ効顯著ナリト雖第何區最モ可ナルヤ斷ジ難シ

第二 指導製造

四十四年末ニ於テ綠茶空前ノ高價ヲ示シタル後ヲ受ケ地方生産家ハ本年度新茶ノ價格ヲ豫想シ紅茶製造ノ豫約ヲ爲スモノナク僅ニ壹萬未滿ノ荒茶ヲ得タリ即製造戸數四十二、口數九十二、數量九千二百二十五斤餘平均貳拾七錢ニ當レリ

精製ノ結果

- 一號 六千三百十五斤
- 二號 一千四百三十五斤
- 三號 三百七十五斤

計 八千二百二十五斤 精製歩止リ七割九歩

内 一千七百斤 小包紅茶ニ配合ス

而シテ試賣ノ結果ヲ示セバ (大正元年度分)

月 日	地方	拂下人	茶種	種數	量單	價小	計
四、一〇	東京	龜屋	上	四十四年上	五〇〇斤	三五	一七五、〇〇〇
七、二三	全	全	上	四十五年上	三〇〇	三五	一〇五、〇〇〇
一一、一一	全	全	中	全	三〇〇	三二	九六、〇〇〇

二、二五	全	全	全	全	二二五	三〇	六七、五〇〇
一、三〇	全	栗田貞藏	上	全	二〇〇	三六	七二、〇〇〇
四、二〇	横濱	高橋甚藏	上	四十四年上	二五〇	三五	八七、五〇〇
七、二七	全	全	上	四十五年上	五〇	三五	一七、五〇〇
八、三〇	全	全	全	全	七五〇	三七	二七七、五〇〇
二、六	全	全	全	全	三七五	三四	一二七、五〇〇
四、一〇	静岡	古谷西村商會	上	四十四年上	四〇〇	三五	一四〇、〇〇〇
九、二五	全	全	中	四十五年	二五	三二	八、〇〇〇
九、三〇	大阪	山本園	上	全	二二五	三七	八三、二五〇
二、一五	全	全	中合茶	全	七〇	三四	二三、八〇〇
九、二	神戸	宇和商會	上	全	一、〇五〇	三五	三六七、五〇〇
二、二四	全	全	上	全	七五〇	三三	二四七、五〇〇
八、一二	吳	檜垣義憲	中	全	三〇〇	三二	九六、〇〇〇

二、一四	吳	檜垣義憲	全	下	三七五	一八	六七、五〇〇
一、二九	門司	天野菊松	全	上	七五	三六	二七、〇〇〇
七、二三	福島	許斐久吉	全	上	二五〇	三五	八七、五〇〇
一〇、三一	全	全	全	上	三七五	三五	一三一、二五〇
一二、二九	熊本	工藤功	全	上	五〇	三六	一八、〇〇〇
	其	他			三五、五		一三、七〇〇
	計				六、九〇〇五	三三二、二七〇	二、二三六、五〇〇

小包茶卸小賣拂下數量

一、封度一、〇〇〇個。一個卸四五錢。四五〇圓 半封度六一〇個。一個卸二五錢。一五二圓九〇〇
 販賣先ハ主トシテ東京、京都等都會ノ地方ナリ

一、封度二七個。一個小賣六〇錢。一六圓二〇〇〇 半封度二五個。一個小賣三五錢八圓。七五〇

綠茶拂下高三百七十五圓餘

第三 綠茶試驗并ニ指導

一、釜熬日干茶ニ替ユベキ改良製法ノ研究ヲ行ヒ左ノ如キ方法ヲ得タリ

茶葉ヲ強力ノ蒸氣ニテ蒸シ葉干籠ニテ葉干ヲ行ヒ漉上ニ揉揉ヲ爲シ即時火乾スルカ或ハ陰干ノ後火乾
 ヲ爲ス

斯クスルキハ釜熬茶ノ欠點ヲ補ヒ水色良好ニシテ香味可ナレバ市場ニ歡迎セラレ而モ製法容易ナレバ
 何人モ行ヒ得ベシ故ニ縣ハ大正二年度ニ於テ此ノ製法ニ依ル改良設備ニ對シ補助ヲ行フコト、ナレリ

二、蒸釜築造指導及機械据付指導

鶴鶴釜十七個所及高林式製茶機械四臺ノ据付指導ヲ爲ス

三、製造指導

静岡ヨリ教師三名ヲ雇入レ八女郡内焙爐製茶ヲ爲スモノヲ巡廻指導セリ

第四 傳習生養成

一、紅茶製造傳習生養成 貳ヶ年連續シテ傳習セルモノ二名ニ對シ修了證書ヲ授與シ及第一期生トシテ
 新ニ六人ノ傳習生ヲ採用セリ

二、綠茶傳習生養成 一番茶ニ於テ七名二番茶ニ十七名ノ綠茶製造傳習生、養成ヲ爲シ修了證書ヲ授與セリ

第五 其他

一、技術者ノ出張回数ハ三十三回ニシテ内縣外出張貳回、福岡出張九回、其他ハ講話及實地指導等ナリ
 三、文書ノ往復件數

受信 三八六件、 發信 六二六件

四、參觀 人
貳百四拾人

右ノ通り報告候也

雜之部

第一 見習生

本場ニ於テハ毎年見習生拾貳名ヲ限リ入場セシメ學理及實地ニ付一ケ年間養成シ習得セシモノニ對シテハ夫々修得證書ヲ授與セリ

第二 講習會

一、長期農事講習會 三週間ノ長期農事講習會ヲ開設シ本縣規定ノ土壤、肥料、作物、病虫害、養蠶、養畜、林業等ニ付キ講授セリ今各郡別表ヲ示セバ左ノ如シ

郡名	修得生數	郡名	修得生數
嘉穗郡	四〇	三池郡	二五
朝倉郡	一三五	筑紫郡	五五

浮羽郡

三〇

早良郡

二一

京都郡

二二

三潞郡

五四

築上郡

一〇〇

山門郡

二七

柏屋郡

六二

合 計

五七一

二、高等農事講習會 一月廿五日ヨリ廿九日迄五日間第二回高等農事講習會ヲ本場内ニ開設シ各郡町村

農業技手五拾名ヲ入會セシメ主ニ病虫害豫防驅除等ニ付キ講述セリ

三、害虫講習會 三日間ノ害虫講習會ヲ縣下六ヶ所ニ開設シ來會者ハ總數八百八拾五名ナリシ

第三 出張

場員出張延日數千〇九拾九日ニシテ是レガ事項別左ノ如シ

事 項	延 日 數
農事講習會	貳百拾四日
害虫講習會	拾 八 日
農 談 會	百八拾五日
農事調査、農事獎勵 農事實地指導其他	六百八拾二日

第四 印刷物

左記印刷物ヲ壹千部ツ、調製シ參觀人其他へ夫々配布シタリ

農事試験成績報告

新田原土質改良試験成績

麥ノ品種特性調査報告

明治四十四年度業務功程報告

米作の話

果樹栽培の榮

甘藍を作る法

綠肥の栽培法

葱頭の作り方

薯蕷作の榮

干柿製造法

堆肥の作り方

第五 種畜種禽種苗配布其他

- 種別 件數
- 種豚配布 貳拾六頭
- 種禽配布 貳百貳羽
- 種卵配布 參百六拾四個
- 種苗配布 參千百七拾參本
- 質問應答 貳百四拾貳件
- 文書收受 參千九百八拾九件

文書發遣
參觀人

參千七百拾貳件
四千九百八拾五人

第六 職員

技師	場長	片田豊太郎
同	本場勤務	高石政次郎
同	同	見波定治
同	同	毛利萬太郎
同	同	田原進
同	同	半田彌藤次
同	同	三苦幾太郎
同	同	南波清三郎
同	兼務	渡邊廉一
同	紅茶製造試験所	菅家和藏治
同	本場勤務	高木繁雄
同	同	

終

